

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学 校 名 葛 飾 区 立 青 戸 小 学 校  
(※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校     中高一貫<sup>※注2</sup>     高等学校  
 教員養成大学     専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む    ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒125-0062

東京都葛飾区青戸6-18-1

E-mail [ryou.igaki@katsushika.ed.jp](mailto:ryou.igaki@katsushika.ed.jp)

Website <http://school.katsushika.ed.jp/aoto-e/html/index.cfm/1,html>

幼児児童生徒数 男子 237名    女子 221名    合計 458名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「クリエイティブな青戸の子」を活動テーマとして、ESDの実践には、①人格の発達や自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと②他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むこと、の2つの観点が特に必要だと考えた。そこで「笑顔・元気・思いやり」を育むとともに、「笑顔・元気・思いやり」があふれる世の中を持続させることができる人を育てることを目指すことにした。①「主体的・対話的で深い学びのある理科・生活科」の授業研究生活科では、気付きを共有する場(対話)を工夫し、試行錯誤の(主体性を促す)場を確保すれば、気付きの質が高まり、より深い学びになるだろう。理科では、学習問題作りや実験計画(言語活動I)を充実させることで、主体的に学ぶ姿勢が生まれ、より深い学びになるだろう。話し合いの形態を工夫することで、考察を深めることができ、より深い学びになるだろう。という仮説のもと、各学年1回の研究授業を中心として深い学びから課題解決能力を高めるための研究に取り組んだ。

②総合的な学習の時間を中心に、他教科や特色ある教育活動を組織的かつ横断的に扱うためのカリキュラムマネジメントに係わる活動

総合的な学習の時間の中心となる課題を3年生地域・社会4年生環境・福祉5年生国際理解6年生キャリア教育として構成している。総合的な学習の時間を中心に、理科・体育科（体力向上活動）や特色ある教育活動を組織的かつ横断的に扱うためのカリキュラムマネジメントに取り組んでいる。

③生涯を通じて運動に親しみ、自らの健康の保持・増進に努めることができるための体力向上活動

本校は平成24年から平成26年まで3年間、校内重点研究で体育科の授業づくりに取り組んできた。その財産を活かし現在も、高い水準の体育科学習や体力づくりをすすめることができている。校務分掌にも、体力向上委員会を現在も持続させ、ねらいを「年間を通して、児童が目標をもって体力を高める機会を設けるとともに、自ら進んで運動に親しもうとする態度を養っていく。また、体力調査の96項目全てにおいて東京都の平均値を上回ることができるようにする」としている。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 学校行事(ハートフル集会など) )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ESD大賞受賞校実践集、ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引き（初版）、平成28年度「かつしかっ子」宣言実践報告集、

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育活動全体を通してユネスコスクールの活動を取り入れている。  
今年度と来年度は東京都教育委員会「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」の指定を受けている。  
本校では、小学校段階での生きる力を付けた児童像を「クリエイティブな青戸の子」とし、  
①「主体的・対話的で深い学びのある理科・生活科」の授業研究  
②総合的な学習の時間を中心に、他教科や特色ある教育活動を組織的かつ横断的に扱うためのカリキュラムマネジメント  
③生涯を通じて運動に親しみ、自らの健康の保持・増進に努めることができるための体力向上活動  
の研究開発に努め、「笑顔・元気・思いやり」を育むと共に「笑顔・元気・思いやり」があふれる世の中を持続させることができる人を育てることを目標にした。この目標を達成するために、PDCAサイクルを通して、改善をしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・ ESD についての捉え方を教員が学び直した。
- ・ ESD に取り組む意義を一人一人が考えるための校内研修をした。
- ・ 学習指導要領改訂を踏まえ、教育課程の見直しを図った。
- ・ 校務分掌にユネスコスクール担当と ESD 担当を設置した。
- ・ 6 月と 3 月に ESD アンケートをとり、児童の意識変化を調査した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」として、ESD アンケートを取った。その集計を東京都教育委員会に送付し、回答を待っている段階である。  
校内では、そのデータから、持続可能な社会づくりに向けた活動には興味をもっていることが分かった。しかし、約 2 割の児童が具体的に「何を」「どこで」「どのように」取り組むのか戸惑っていることがわかった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

2018年2月5日に葛飾区総合教育センターにて、今年度の研究発表を行った。その際に、リーフレットを作成し、参加者に配布した。また、23区の小学校と東京都教育委員会が定める「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」にもリーフレットを送付した。  
特に葛飾区内では、本校がESDの拠点校になることを明確に伝えることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

実際的な交流は現在検討中。  
公式ホームページの情報などを参考にしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

実際的な交流は現在検討中。  
公式ホームページの情報などを参考にしている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

今年度初めて実施した「ユネスコウィーク」では、「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」で入賞した各国の絵日記を掲示した。そのことで、児童や教員が日本と世界の違いについて考えるきっかけを作ることができた。さらに、その絵を見た保護者が本校がユネスコスクールであることを再認識していた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 29 年度は東京都教育委員会「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」の指定を受け、活動を活性化させた。

今年度、重点的に研究した下記の 3 つを 3 本柱とする。

- ①「主体的・対話的で深い学びのある理科・生活科」の授業研究
- ②総合的な学習の時間を中心に、他教科や特色ある教育活動を組織的かつ横断的に扱うためのカリキュラムマネジメント
- ③生涯を通じて運動に親しみ、自らの健康の保持・増進に努めることができるための体力向上活動

平成 30 年度は 3 本柱を P D C A で見直し、研究を深めていく。その成果を平成 31 年 2 月 22 日（金）に発表する。